



篠原城の歴史

江戸時代後期に幕府が編纂した『新編武蔵風土記稿』では、鎌倉時代初めの金子十郎家忠、または戦国時代の金子出雲が築いた城とされ、地元では金子城と呼ばれています。

地元の武士と農民が、戦争の際の防御・避難目的で築いた平山城です。

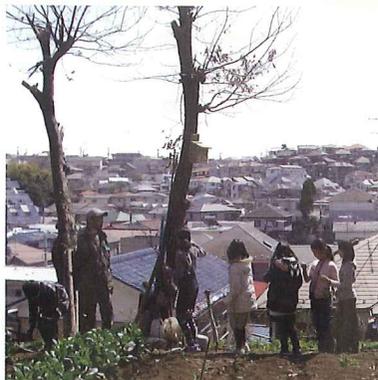
時代が変わり、廃城となった後は、村民の住居や畑になりました。その後山頂部が雑木林（緑地）として残り、野鳥などさまざまな生物のすみかとなっています。

小机城（現在の小机城址市民の森）とも関連していたと考えられ、港北の歴史を知る重要な文化財です。

篠原城跡の保存

篠原城跡は、2000年代に研究者の調査で土台部分が奇跡的に残っていることが報告され、広く知られるようになりました。

その後、城跡の一角で住宅開発に伴う発掘調査が行われ、戦国時代の様子を残す貴重な文化財であることが改めてわかりました。そうした中で、地域住民や「篠原城と緑を守る会」が、城跡と緑の残る丘（城山）の保存を横浜市に働きかけ丘の一部が、2011年に篠原城址緑地として指定されました。



「篠原城と緑を守る会」では、篠原城址緑地での野鳥観察会、周辺の鎌倉道（古道）の散策会などを主催しています。



篠原城と緑を守る会

〒222-0026 横浜市港北区篠原町2754 長福寺気付
TEL 045-401-5276 FAX 045-434-1845

(2012.12.01)

この企画は、港北区の「地域のチカラ応援事業」の補助金を受けて製作されています。

篠原城

— 戦国時代の横浜を伝える緑の丘陵 —



篠原城全図 (縄張図)

- 色分け凡例
- 篠原城山城
 - 斜面 (崖)
 - 堀
 - 土塁
 - 曲輪 (郭)

◆ **イ・ロ・ハ・ニ**
城の入口
(虎口、小口)
敵を防ぎ味方を守る構造

◆ **a** 土塁を伴う小曲輪

■ **b・c・d**
豎堀 (たてぼり)
斜面に直交して作られた堀
ローム層などで敵が登れない
よう工夫されている

■ **I・IIa・IIb・III・IV・V・VI**
曲輪 (郭、くるわ)
防御や居住施設などのための
城内の区画空間

縄張図作成：國學院大學 伊藤慎二氏 (2006年)
色分け：篠原城と緑を守る会



城跡は、丘の頂上付近の主郭 (本丸) を中心に、複数の郭 (防御のために区分けされた城内の空間) が周囲の斜面を段状に取りまきます。特に主郭の周囲には、土塁 (土手でできた城壁) や空堀 (水の無い堀：横堀・豎堀) だけでなく、空堀を横切る土橋 (土でできた橋) と主郭の守りを固めた入口である虎口もいまなお見られます。

2011年、開発により城跡の一部が壊されるということで事前に発掘調査した結果、想定していた以上に深く長い空堀、戦時の仮設建物や工場の跡と考えられる遺構、また武家の儀礼で使ったと考えられるカワラケ (酒杯) などが出土しました。

現在、発掘部分は開発され住宅地になりました。



現在の様子 ↑ 曲輪 I 土橋南東より ↑ 曲輪 I 北東壁面

発掘現場全景 (2011年)



← 上幅7m・深さ5mの堀
覆土からカワラケ出土
堀の黒い横筋部分は
宝永4年 (1707年) の
富士山大噴火による
火山灰の堆積層です。



出土品 ↑ 常滑焼すり鉢
15~16世紀 ↓ カワラケ



← 遺構
(建物のあと)

※ 現在、緑地内へは許可なく立入ることはできません。
(緑地管理：横浜市環境創造局北部公園緑地事務所 TEL 045-311-2016)



長福寺 薬師如来像 胎内木札

近くの長福寺本尊の薬師如来の胎内に1595年に納められた文書に、奉納者の一人として金子出雲守の名前があります。